

省	大臣	出身	イラク戦後についた前職	生年	前政権下での勤務	政治的所属	略歴	補足
大統領	ガーズィー・アジール・ヤーワル	スンナ派、シャマル部族長甥(サウジパスポート保有)、モスル出身。	GC、6月議長職、サリーム死去により5月繰り上げ議長	45歳			サウジの石油鉱物大学、米ジョージタウン大で学ぶ。シビルエンジニア、在サウジHicap echnology社副社長、15年間在サウジ。イラクには6月に帰国。もともとGCの議長団には入っていなかったが、2004年4月、GCの合議で追加的に6月の議長に選ばれた。ファッルージャでの停戦交渉で代表として活躍。米軍の駐留に批判的な姿勢を示すものの、一方で「米軍の治安維持は不可欠」との現実的な発言も。政治的な組織への所属はないが、チャラビが彼を推薦したとの説もあり、党派性は不明。	従兄弟と緊張関係ありとの説
副大統領	イブラヒーム・ジャアファリ	シーア派、カルバラ出身	GC、GC議長団(2003.8月)	1947		ダアワ党党首	モスル大学医学部卒。66年ダアワ党入党。最初イラン亡命、1989年ロンドンへ。ダアワ党ロンドン支部代表から戦後イラク帰国、実質的に党代表に。医師。	
副大統領	Dr. ローズヌーリ・シャウィーシュ	クルド	(クルド自治政府)GCバルザー二代行	1947		KDP政治局員	96-99年にはKDPクルド自治政府首相。ドイツで工学博士号取得、ドイツのクルド学生連盟議長に。75年帰国、クルド反乱に参加。91年クルド自治政府(KDP,PUK合同)では副首相、99年以降現KDPクルド自治議会議長。	
首相	イヤード・アッラーウィ	シーア派、	GC、GC議長団	1945		INA(親CIA)代表	バグダード大学医学部卒、79年ロンドン大学医学博士。神経科医、ビジネスマン。71年ペイルートに亡命、72年から在ロンドン。UNDP,WHO,UNICEFへの顧問経験あり。元バアス党。96年反フセインクーデター未遂に参加。	
副首相	Dr. ブルハン・サーリフ	クルド	(クルド自治政府)	1960		PUK政治局員(91年~)	Cardiff大学で工学学士号、リバプール大学で統計・コンピューター博士号取得、シビル・エンジニア。イギリスで教育受ける。76年PUK参加。二度フセイン政権下で逮捕歴あり。79年イラクを離れPUKスポークスマン、91年以降クルド自治政府の駐米代表を務め対米関係良好。2001年以降スライマニヤのクルド自治政府首相を務める。2002年4月アンサール・イスラームによる暗殺対象となった経験あり。	2003年中には国連大使就任の噂、2004.6月組閣前は外相就任の噂あり
外相	ホシャイル・ジバリー	クルド、アクラ出身	留任	1953		KDP政治局員、INC議長メンバー	モスルで育つ。76年ヨルダン大学政治学士、79年英工セックス大開発社会学修士。1979年KDP中央委員会、政治局委員に。党首バルザーニーへの政治顧問として筆頭格。1988-2003年KDP国際関係局。1992年INC執行委員、1999年議長メンバーに選出される。英語、アラビア語が堪能。	
石油相	サーミル・ガドバーン	シーア派、バビロン出身	2003年9月まで石油相代行	1945			ロンドンの大学で地理学学士、石油工学修士。73年以来石油省勤務、省内の改革を支持して昇進を妨げられる。石油リザーブ工学専門、調査計画局長。	
国防相	ハージム・シャアラーン・アル=フザイー	シーア派、南部ガザル部族長、ディワニーヤ出身	カーディシーヤ県知事				1972年バグダード大学経済経営学学士、クート・ディワニーヤ、その後バグダードのイラク不動産銀行勤務のち85年亡命し海外で不動産業を営んだ。1991年暴動に主導的役割を果たしたとの説もあり(Guradian)。2003年4月以降カーディシーヤ県知事。2004年2月には選挙で再選。同じフザイー家から前GCメンバーのラジャー・ハビブ・フザイーがいる。	

省	大臣	出身	イラク戦後についた前職	生年	前政権下での勤務	政治的所属	略歴	補足
内相	ファラハ・ハサン・アル＝ナキーブ	スンナ派、サマッラー出身	サラハッディーン県知事			イラク国民運動(Iraq National Movement)	父親が著名な反フセイン派軍人のハサン・アル＝ナキーブ。父はアラブ民族主義を掲げる政治的職業軍人として、70年代初期フセインと対立し、シリアに亡命、アサドらアラブ民族主義系軍人政治家と親交を持った。湾岸戦争後は一時INCの最高指導部3人の一人にスンナ派代表として選ばれていたが、早くからINCを脱退、アラブ民族主義系政治家を集めてイラク国民運動を主宰。ファラハ自身は父の秘書的役割を果たし同運動の幹部として政治的センスを発揮していたが、必ずしもアラブ民族主義を標榜せず、むしろ世俗的イラク国民主義を主張。	
法相	マリク・ドゥハーン・アル＝ハサン	ヒッラ出身	イラク弁護士協会会長	1920		国民独立党	仏で公法・民法で学位、法学博士号取得。前政権下での被害者補償特別タスクフォース委員長。バグダード大学法学教授。王政時代に二度国会議員に選出、67年文化情報相就任。イラク国民独立党党首(世俗民族主義系、機関誌al-Balagh)。弁護士。3月制定の基本法には批判的見解を述べる。	国民独立党(National Independence Party)は2003年8月にNational Salvation Council, Arab Democrats Movementと統合
電力相	アイハム・サーマラーイ	スンナ派、サマッラー出身	留任			Iraqi Independent Democrats(パチャチ)	バグダード大学で電気工学学ぶ、シカゴ大学博士。KCIに電気コントラクターとして30年勤務。発電所のデザインなどの経験もあり。技術系論文多数。2002年12月65人のロンドン会議フォローアップ委員に選ばれる。イラク中道民主の幹部。	
財政相	アーディル・アブドゥル＝マフディ	シーア派、バグダード出身	GCアブドゥルアジーズの代行メンバー	1942		SCIRI政治局代表、同スポークスマン。	エコノミスト。フランスの大学で政治経済の学位取得、仏イスラム研究所長。雑誌など数々の編集。69年イラクパスポートを剥奪されフランスに亡命。SCIRIに加盟しイランをしばしば訪れる。92-96年クルドのSCIRI代表。2002年12月65人のロンドン会議フォローアップ委員に選ばれる。ファッルージャでの旧共和国防衛隊将校起用に強く反対	当初首相候補との説も。
工業相	ハージム・アル＝ハサニ	スンナ派、キルクーク出身	GC代行、GC財政委員会副委員長	1954		イラク・イスラーム党政治局、スポークスマン	モスル大学卒。79年渡米しネブラスカ大学で国際貿易学び、コネティカット大学で産業組織に関する博士号。インターネット会社経営。各種NGOの理事。2002年12月65人のロンドン会議フォローアップ委員に選ばれる。ファッルージャでの停戦交渉にGC側代表として参加。	実務は期待できない?
厚生相	アラ－ッディーン・アブドゥルサーヒブ・アル＝アルワーン	シーア派、バグダード出身	教育相	1949			71年アレキサンドリア大学医学部卒。英国で専門経験を積み、1990-91年ムスタンシリーヤ大学(イラク)医学部で教授、学長。内科疾患に関する科学会議事務総長。イラクの厚生省、高等教育省、世界保健機構(WHO)での勤務経験あり、1995-97年ヨルダンに派遣の団長務める。	
公共事業相	ニスリーン・ムスタファ・シッディーク・アル＝ブルワ－リー	クルド、女、バグダード出身	留任(クルド自治政府)	1967			14歳の時から投獄経験あり。1991年バグダード大学建築工学部卒、99年ハーバード大学公共政策・経営学修士。米国の諸機関に務める。1991年にクルド地域に移動しUNHCRに勤務、97-98年ドゥホークの国連定住化計画地域局長として4000村の再建に携わる。クルド自治政府では復興担当など閣僚歴任。イラクの将来計画参加。前期の大任職では積極的に地方行政の中央管轄化を進め、バグダード都庁とぶつかった経緯あり。	

2004年6月1日組閣のイラク暫定政権

省	大臣	出身	イラク戦後に ついた前職	生年	前政 権下 での 勤務	政治的所属	略歴	補足
科学技術相	ラシャード・マンダーン・ウマル	トルコマン、キルクーク出身	留任				77年ロンドンでエンジニアリングの博士号、99年まで石油省石油建設委員会局長。その後バハイの空港建設にマネージャとして5年従事。	
計画相	マフディー・ハーフィズ	シーア派	留任				化学学士、社会学修士、経済学博士。1975-79年間石油省勤務。1978-80年在ジュネーブ・イラク国連代表全権公使。経済・社会問題の専門家。元UNIDO事務局長個人顧問、カイロのアラブ経済調査協会会長。Iraqi Independent Democrats(パチャチの政党)に参加	
青年スポーツ相	アリー・ファーイク・アル＝ガッバーン	シーア派、バグダード	留任	1955		SCIRI 政治局員	77年バグダード大学農業工学学士、80年国外亡命、イランで難民救済活動など。	
地方問題相(新設)	ワーイル・アブドゥルラティーフ	シーア派、バスラ出身	バスラ県知事、GC	1950			73年バグダード大学法学部出身、82年法研究所で学位。バスラ、サマワで裁判官、ナーシリーヤで控訴審副長ののち94年一年間投獄。論文多数。戦後バスラ地域評議会によって知事に選ばれる。	
移民難民相	バスカル・イッソー・ワルダ	アッシリア人、女性、モスル出身		1961		アッシリア国民運動(左派系)	リヨン大学人権研究所から学位。アッシリア女性連盟議長、イラク人権協会創設者の一人。パリ、シリア亡命。パリではアッシリア運動代表。アッシリア援助協会の対外局長。	
灌漑相(水資源省の改称か)	アブドゥルラティーフ・ラシード	クルド、スライマニア出身	水資源相	1944		PUK政治局員、ロンドン支部代表。元INC執行委員会副議長。	PUK党首タラバーニと親戚関係。68年リバプール大学でシビルエンジニアで学位、76年にマンチェスター大学工学博士。灌漑・排水国際委員会メンバー。サウジ、ソマリア、南イエメン、エジプトなどで顧問など。78年以來クルド連合戦線の在英代表。	
文化相	ムフィード・ムハンマド・ジャワード・アル＝ジャザイリー	シーア派、バビロン(ミトハティーヤ)出身	留任	1939		イラク共産党	66年チェコスロバキアでジャーナリズム修士。60-70年代チェコ放送でアラビア語局勤務の他、共産党機関誌の現地特派員。82-88年クルド地域で反体制活動参加。妻はチェコラジオ放送の記者。	
農業相	Dr. サウサン・アリー・マジード・アル＝シャリーフイ		農業省次官	1956			同省の再建計画・プログラミング部門を担当、USAID,CPA,世銀との窓口役。バグダード大学畜産学士、アイオワ大学養畜博士。84年イラク帰国、科学研究委員会委員。学術論文多数。学生の指導にもあたる。「イラク農業ジャーナル」編集員。	
女性担当相	ニムリーン・ウスマーン	クルド、女	(クルド自治政府)				湾岸戦争後スライマニヤ大学経済経営学部講師。PUKクルド自治政府で2000年労働社会相就任、2001年段階で教育相、2003年段階で高等教育・科学技術相、副首相、その後同政府首相代行。2003年イラク女性の声大会諮問監視委員会メンバー。	

省	大臣	出身	イラク戦後についた前職	生年	前政権下での勤務	政治的所属	略歴	補足
教育相	Dr. サーミー・ムザッファル	バスラ出身		1940			生化学専門、1960年バグダード大学理学士、Virginia Polytechnic Institute博士。67年バスラ大学理学部で教職に、71年助教授、79年バグダード大学生化学教授、2000年までバスラ、バグダード大学で講師。著作業績多数。「イラク化学ジャーナル」などの編集委員。戦後2003年5月に大学内で選出されてバグダード大学総長となる。9月に解任されたが、学生、職員が解任反対のデモ実施。解任理由は、「GCによるバース党員パーシ要求に十分応えず、大学内再編に反対したため」	
貿易相	ムハンマド・アル＝ジュブーリ	モースル	SOMO(国営石油販売会社)のDG	1949		National Democratic Rally党首	現在al-Hadath誌編集長。74年モースル大学経済学部卒、83年グラスゴー大学経済学学位取得、イラク帰国し以降SOMO勤務。貿易省にも勤務経験あり。	
環境相	Prof. ムシュカト・ムウミン	女性	イラク・ファウンデーション局長補				バグダード大学法学教授。人権コースが専門。女性問題委員会(女性に関する高等委員会の政治局)の委員。	
高等教育相	ターヒル・ハラフ・ジャブール・アル＝バカーア	シーア派、ディーカール出身	ムスタンシリア大学総長	1950			バグダード大学で歴史学士、修士、博士。十年以上ムスタンシリア大学で教授。94年歴史学部長、大学出版局編集委員。アラブ歴史家連盟、イラク歴史考古学協会など各種委員。旧バース党員だが91年の暴動でシーア派鎮圧を契機に党を離脱。戦後総長に選出されるも、党員だったことで学生から反発もあった	
通信相	ムハンマド・アリー・アル＝ハキーム	シーア派、ナジャフ出身	GC副事務局長、外務省大使職	1952			ムスタンシリア大学統計学士、英パーミンガム大学コンピュータサイエンス修士、南カリフォルニア大学情報経営学博士。Nortel Networks and Cambridge Technologyのグローバル・ダイレクター。米テクノロジー企業Infoclarus共同創設者。	
運輸相	ルワイ・ハーティム・スルタン・アル＝ウルス		バグダード市評議会副議長、バグダード知事		()		ボーイング社航空機エンジニア、イラク航空DG。地方評議会の活動において女性・子供委員会。2004年1月バグダード市評議会に選出	
住宅相	ウマル・アル＝ファールーク・サーリム・アル＝ダムルジ						バグダード大学エンジニア学士、修士、博士。バグダード大学教授、工科大学でシビルエンジニアリング教鞭。クーファ大学、サッダ・ム大学でも学生指導。ハノーバー大学、ロンドン市立大学客員教授。2000年バグダードシビルエンジニアリング学部長。UNESCOイラク高等教育委員会メンバー。	
労働相	ライラ・アブドゥル＝ラティーフ							

2004年6月1日組閣のイラク暫定政権

作成:酒井啓子 5/5

省	大臣	出身	イラク戦後についた前職	生年	前政権下での勤務	政治的所属	略歴	補足
人権問題相	バフティヤル・アミン	クルド、キルクーク出身	2004年4月トルキー人権問題相が辞任して以降人権問題相代行			マフムード・ウスマンGCスポークスマン	ソルボンヌ大国際問題修士、政治地理博士、スウェーデンでメディアを学ぶ。80年代イラクで移民難民問題顧問。パリのクルド研究所事務局長、ミッテラン夫人の顧問、ワシントン人権連合局長。ダーバン会議など人権問題国際会議出席。	
無任所国務相	アドナーン・アル=ジャーナービ	ジャーナービ部族出身					政治評論家。ロンドン大学で経済学名誉学士を受けたエコノミスト、Loughborough大学で石油工学修士。70年代イラクの石油販売関係の長、OPEC勤務。80年代イラク石油省で対外関係局長、96年イラク国会議員に選出され、同義会石油委員会の副委員長。	
無任所国務相	カーシム・ダワード	ナーシリーヤ出身、ヒッラ生まれ		1949		Iraq Democrats Movement事務局長	1971年バグダード大学理学部学士、78年Lawdiff大学修士、82年ウェールズ大環境・微生物学博士。UAEで科学者として勤務。	Iraqi Democrats Movementは2000年の段階でthe Iraqi National Party(ミシュアン・ジュブーリ)、Iraqi National Rally(フセイン・ジュブーリ)、Free Democrats Movementなどと共同宣言を行う関係にあった
無任所国務相	マフムード・(マム・ファルハーン)ウスマーン	クルド、スライマニア出身	GC	1951		元クルド社会党党首	英・独哲学博士。言語学者。クルド社会党は70年代末分裂、他党との統合を繰り返すが、世俗的クルド政治勢力の知的オピニオンリーダー的な存在として各派から支持を集める。1998年訪日経験あり。	